



内子座 藝於遊



避雷針の撤去

令和7年6月27日、大正レトロを感じさせる曲線の印象的な避雷針が、地上に降りてきました。内子座の大屋根の上にある太鼓櫓の、さらにその屋根の上に乗る避雷針は、大正5年の創建当時からその姿を変えず、ずっと内子座を守り続けてきました。

この日、朝から太鼓櫓の四方に作業用の足場が組まれ、撤去作業が始まりました。誰もが避雷針を撤去するのは初めてのことで、避雷針と太鼓櫓の屋根はいったいどのように固定されているのか、まさに手探り状態での作業になりました。



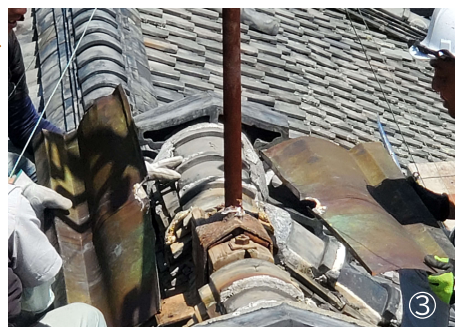
取り外された避雷針
(6月27日撮影)



①太鼓櫓と避雷針



②太鼓櫓の棟を覆うように取り付けられていた銅板を取り外します。漆喰で固められていたため、それらを取り除き、銅板が解体されました。



③銅板を取り外したところ



■大正5年(1916)落成時の太鼓櫓：同じ姿の避雷針を見ることができます。内子座に雷が落ちたという記録は見つかっていません。



④避雷針本体が取り付けられた木部ごと、撤去されていきます。

⑤避雷針が取り外された太鼓櫓。ちょっと寂しいですが、修理後はまた元の場所に戻されます。

